

文 集

なぎさ

第 82 号

なぎさ和楽苑

令和7年7月31日発行

「伝える」「こと」と「伝わる」「こと」

苑長 池田めぐみ

自分自身、難題だと感じていることの一つである。「あれ？お願いしたように仕上がってないかも…」と依頼したものが違った形で戻ってきて、少々とまどうことがある。そのたびに、自分自身のお願いの仕方、説明不足であったと深く自責の念に駆られ、やはり自分自身でやってしまえば良かった…となる。そうすることで結果的に仕事量は増え、人は育たずという構図を生み、組織としても望ましくない。また、さまざまな掲示物などで情報発信しても、大事なものを見落として期日が守られなかった

たり、せっかく記事を紹介しても気づかなかつた、ということも生じている。

「伝える」とは一方的なコミュニケーションで自分中心であること、「伝わる」は相手の目線や立場を理解しつつ、双方向でのコミュニケーションを取る行いの相手中心であること、と検索すると出てくる。しかしながら、この「伝わる」というコミュニケーションは難しい。会話だけでなく、メールや掲示物など、対面の手段ではない方法で伝える際は、こちらの想いが伝わらず、誤解を生じて相手を不快にさせてしまう

こともしばしばある。それなりの語彙力と、文字だけではなくイラスト、写真などさまざまな手段で伝える努力が必要なのだろう。お願いした通りに仕上がっていないければ、どのように工夫すれば伝わるか、こちらの意図していたものはこういうこと、というように答え合わせのように直接やりとりすることも一つのコミュニケーションであり、次へのクオリティを上げる地道な方法なのだろう。

自分の想いを伝えることの難しさを痛感すると同時に、入居者や利用者、家族、介護者の発信する想いを、私たちはきちんと理解ができているか？ということにふと気づかされた。

おまつりだよ 全員集合!! 「第47回江戸川区民まつり」

2019年は台風で中止、2020年以降は感染症の影響でオンラインで実施されていた江戸川区民まつりが、2023年に5年ぶりに会場で開催されました。2024年10月13日(日)に行われた「第47回江戸川区民まつり」には、東京栄和会として3拠点の職員総勢40名が参加。天候に恵まれ、多くの地域の方々にご来場いただき、大盛況のうちに終えることができました。

このまつりは、長年にわたりボランティア団体「なぎさグループ」の皆様が主体となり、昭和53年から模擬店ブースを出店してきた歴史があります。なぎさグループ様とは、当苑が40年前に江戸川区へ移転した際にご縁が始まり、団体名も「なぎさ和楽苑」か

ら名付けられたという経緯があります。以来、ご入居者様への支援や行事への参加など、多岐にわたる活動を続けてこられました。

区民まつりへの参加は、普段お世話になっているなぎさグループの皆様への感謝の気持ちを込めたものです。私自身、まつりに参加して約2年になりますが、今回初めてこの背景を知り、改めてボランティアの方々の存在の大切さや、地域とのつながりを継続する意義を実感しました。

これまで築いてきた歴史を大切にしながら、今後もなぎさグループ様とともにまつりを盛り上げていきたいと思います。皆様もぜひ江戸川区民まつりへお越しください。(ボランティア担当 中村達也)





サークル活動紹介〈vol.2〉

SMILE-UP !!

職員の余暇活動で行っているサークル活動「SMILE-UP!!」をご紹介します。職員が推しているアイドルグループ等のライブ映像などを鑑賞し、その好きなグループについて語り合う、そんなサークルです。なかなかお仕事の中では、所属のセクションを超えた繋がりが無いこともあるので、「推し」の力を借りて、職員の交流の機会になっています！（相談課係長 保戸田裕美）



野球サークル

私たちのサークルは、気軽に集まって野球を楽しむことを目的としています。

メインの活動はキャッチボールや軽いノックで、雑談を交えながらのんびりプレーを楽しんでいます。仕事終わりの限られた時間ではありますが、グラウンドに集まり、ボールを投げ合うことで日々の疲れをとり、リフレッシュ！



久しぶりに体を動かすことで、「やっぱり野球って楽しい」と感じる瞬間がたくさんあります。（介護係長 西 奈津美）

久々の対面！ 11月11日 介護の日復活!!

新型コロナウイルスへの対応により、第12回（令和2年）からオンラインをメインとした開催でしたが、今回は5年ぶりに対面をメインとした介護の日となりました。新型コロナウイルスを経て、多くの交流が戻りつつあり、つらい期間を乗り越えた今、利用者、ご家族、地域の方に思いを伝えることを目的に、テーマを「～ Everyone is happy ! ～感謝の気持ちを伝えたい～」としました。

区内の障害のある方々の就労支援を行う事業所が集まり、手作り商品や地域の魅力ある品々を販売している「ミラクルマルシェ」さんとの共催は今回が初の試みでしたが、障害のある方々や職員との交流の機会につながりました。今後も物販を通じてミラクルマルシェさんとの協働を進めながら、障害のある方々や障害分野への理解を深めていきたいと思っています。

久々の対面開催に加え、初めて介護の日に携わる職員も増えました。これまでの介護の日のコンセプトを大切にしながら、新たな介護の日を目指していきたいと思っています。（居宅サービス課 課長 遠藤信裕）



優秀賞を
いただきました！

第2回福祉サービス実践・研究発表会

（社福）長岡福祉協会 主催

昨年12月14日（土）、新宿区戸山サンライズで開催された、（社福）長岡福祉協会主催「第2回福祉サービス実践・研究発表会」に、地域福祉推進課の小林相談員と発表の機会をいただきました。

福祉サービス事業の従事者が、日々の業務における実践や研究を発表し、お互いに学び合いながらスキルとモチベーションを向上させることを目的として、「地域包括ケア、地域共生社会における多職種連携」をテーマに、「オンラインから対面式開催移行に見る若年性認知症カフェのあり方の研究」について発表しました。

地域に開かれていた「あしたばカフェ」が、コロナ禍を経て形式を変えながらも継続してきたこと、参加者のやりがいやカフェに対する思い、そして今後のあしたばカフェのあり方について発表した結果、

優秀賞と評価をいただくことができました。

他事業所の研究発表も素晴らしく、地域の特性を考慮した事業内容を聞くことで、多くの学びを得ました。今後も、あしたばカフェの担当として、参加者のニーズに寄り添いながら、より良いカフェづくりに努めていきたいと思っています。

（福祉用具専門相談員主任 阿戸 匠）



社会
貢献

～赤い羽根共同募金～ 令和6年10月1日開催

令和6年度も「赤い羽根共同募金活動」をなぎさ和楽苑全体で開催しました。この募金活動は長年続く伝統的な地域活動の一環であり、苑内と街頭の2通りの方法で実施されました。苑内では特養・JOYなぎさ・あしたばのメンバーを中心に、苑全体の利用者様とともに呼びかけを行いました。一方、街頭募金は令和5年より再開され、西葛西駅で利用者様や職員と共に募金活動を実施。各セクションの職員が集まり、部署を超えたつながりを深める機会にもなりました。あいにくの天候の中でも、皆様が懸命に呼びかけを行った結果、多くの地域の方々が賛同し、前年を上回る募金額を達成しました。

この活動を通じて、必要としている方々への支援を広げるとともに、職員自身も福祉への関



心を深める貴重な機会となりました。今後も募金活動の意義を発信しながら、継続的に参加していきたいと考えています。

（ボランティア担当 中村達也）

令和6年10/17～18

京都研修

令和6年10月17日～18日の日程で、京都研修に行っていました。



初日は、乙の国福祉会様を訪問し、法人概要について伺った後、各セクションに分かれて職員の方々と日々の業務内容や今後の課題について意見交換を行いました。地域性や組織文化の違いを感じるとともに、なぎさ和楽苑の強みや改善点を改めて見つめ直す機会となりました。

2日目は、松花苑様とげんてん社会福祉士共同事務所様を訪問しました。松花苑様では、障害のある方が表現活動を行う「みずのき絵画教室」や、その作品を展示する「みずのき美術館」を見学し、社会参加の可能性や地域との関わりについて学びました。げんてん様では、後見事業やネパール支援活動についてお話を伺い、個人の支援と国際的な支援の取り組みについて理解を深めました。



また、京都の文化に触れる時間も設けていただき、清水寺や渡月橋を訪れたことで、京都の歴史や文化を肌で感じることができました。

今回の研修で得た学びや気づきをユニットに還元し、より良いケアにつなげていきたいと考えています。

（短期入所生活介護 サブリーダー 藤代万由子）

TOPICS

RUN伴えどがわ2024に参加しました

昨年10月26日（土）に「RUN伴えどがわ2024」が開催されました。「RUN伴（らんととも）」とは、認知症とともに生きる本人や家族、支援者、そして認知症の方と接点がなかった地域の人々が、一つのタスキをつなぎながらゴールを目指すイベントです。

走行ルートのうち、1カ所は当苑がスタート地点となり、開催当日はご入居者様やご利用者様、職員などたくさんの方に温かく送り出していただきました。当苑を出発したタスキは、12カ所の事業所を巡りタワーホール船堀へと届けられました。江戸川区における認知症の普及啓発につながる、素晴らしいイベントになったと感じています。

（東葛西地域包括支援センター 主任相談員 棚原俊勝）





認知症サポーター養成講座

令和7年1月24日(金)、臨海小学校の3年生約50名を対象に、認知症サポーター養成講座を実施しました。

普段は一般区民の方や企業・団体職員向けに開催することが多いのですが、今回は小学生向けということで、理解してもらえるか少し不安もありました。まず、高齢者の特徴について説明し、認知症〇×クイズや紙芝居、脳模型の紹介などを交えながら講座を進めました。

特に、チームオレンジ員による「お財布をなくした時の対応方法」の寸劇では、児童たちから「そこじゃないよー!」「そこにあるよー!」と声援が飛び交い、楽しみながら認知症への理解を深めることができたのではないかと思います。

今後ますます高齢化が進み、認知症の方が増え

ていくことが予想される日本ですが、次世代を担う子どもたちに認知症について理解を深めてもらい、広めていくことで、高齢者や認知症の方、そのご家族が安心して暮らせる社会になることを願っています。

(地域包括支援センター主任相談員 古岡友喜)



TOPICS

VAMOS! 市民社会のミライ 市民社会をつくる ボランティアフォーラム TOKYO2025

主催 東京ボランティア・市民活動センター

令和7年2月9日 開催

「ボランティアフォーラム」に実行委員として参加し、「親なきあとを考える～老障介護の現実と課題～」をテーマに分科会を開催しました。明星大学の吉川かおり教授や江戸川区相談支援連絡協議会の皆様のご協力により、大変充実した内容となりました。地域共生社会を目指し、課題への理解を深める貴重な機会となり、多くの学びを得ることができました。

(ボランティア担当 中村達也)



なぎさ和楽公園 樽鉢花壇リニューアル 「ボランティア活動」～植木鉢の水やり～

当苑に隣接するなぎさ和楽公園に設置された花壇(樽鉢)を、管理させていただくにあたり、令和7年2月10日(月)に「なぎさ和楽公園樽鉢花壇リニューアルイベント」を開催しました。

イベントには江戸川区役所の職員をはじめ、軽費老人ホームの入居者、あしたばメンバー、当苑職員が参加し、美しいビオラの植え替えを行いました。「初めての経験だね」と戸惑う様子も見られましたが、植え替え後には「初めてにしては上出来では」と満足そうな笑顔が見られました。

その後の水やり作業は、フリーサロンあしたばメンバーが担当となり、毎週木曜日に実施しています。「枯らしてしまわないかな?」と心配されていましたが、今ではすっかり習慣化し、慣れた手つきで作業されています。「きれいに成長しているね」と、皆さんうれしそうに観察されていました。

(地域包括支援センター相談員 小林ことみ)



新年祝賀式

特別養護老人ホームで新年会を開催しました。ご入居者が一堂に会し、笑顔と笑い声が溢れる温かなひとときとなりました。おいしいおせち料理や甘酒を楽しみながら、新年の抱負を語り合う場面が印象的でした。また、職員が余興を披露すると会場は大いに盛り上がり、大きな拍手が鳴り響きました。

この新年会を通じて、ご入居様が新しい年への希望を感じ、心から楽しんでいただけたことが何よりの喜びです。来年もさらに素晴らしいひとときをお届けしたいと思います。

(特養生活相談員 大栗朋也)



クリスマス忘年会

毎年恒例のクリスマス忘年会を、各ユニットで12月に開催しました。特養2CDユニットでは、入居者・職員ともにクリスマスの衣装を身につけ、入居者様には用意したケーキやプリンを召し上がっていただくなどクリスマス気分を満喫していただきました。

そして、お楽しみのビンゴ大会も開催。いち早くリーチになっても、そこからが長かったり、出る数字がバラバラだったり…次の番号を待つ声も飛び交い、大変盛り上がりました!

入居者様全員分のプレゼントを準備し、ビンゴになった方から順にプレゼントをお渡ししました。受け取った皆様の笑顔がとても印象的でした。最後は代表の入居者様に来年の抱負を発表していただき、参加者全員で三本締めを行いました。

入居者の皆様と職員がともに楽しめた、笑顔あふれるクリスマス忘年会となりました。

(介護係長 岡田季子)



よりあい処プロジェクト vol.4

今年度で、活動再開から3年目を迎える余暇支援の取り組み「よりあい処」。

昨年も多数のプログラムを開催し、多くのご入居者やボランティアの皆様にご参加いただきました。ご自身で好きなプログラムを選び、楽しんで参加される方や、「今日も楽しかったから、また来ますね!」と笑顔で帰られる方もいらっしゃいます。

3年目を迎え、「よりあい処」がご入居者の皆様の生活の一部になっていることを、担当としても実感しております。昨年度の「よりあい処」には延べ1,459名が参加し、年間の実施日数は143日間と、約3日に1回の頻度で開催することができました。

これからも、ご入居者の生きがいや楽しみに繋



がるよう、専門職によるプログラムを充実させ、活動をさらに活性化していければと考えております。

(特養生活相談員 梅原淳一)



よろしく
お願い
します！

2025 フレッシュマン紹介！！

なぎさ和楽苑に新たなメンバーが加わりました。
今年度入職した職員たちを紹介します。各セクションで活躍中！



2階 汐音・浜風
増田 珠佳さん



2階 潮騒・小波
コンドカロ・アシフさん



4階 桜・梅
御園生 芽衣さん



4階 山茶花・花水木
猿橋 璃音さん



5階 千鳥・鴉
イスラム・サイデルさん

第46回 家族会総会

令和7年4月20日(日)、第46回家族会総会を開催しました。今年度も多くの特養ご家族にご参加いただきました。

総会は会長の進行の下、幹事の皆様から令和6年度の事業報告と会計報告、役員変更、令和7年度の事業計画と予算案、行事への参加協力、ご家族ボランティアについて報告いただき、賛成多数で可決・承認されました。また、今年度から新たに2名の幹事が選任されました。

なぎさ和楽苑の長い歴史の中で、家族会に携わっていただいた皆様の想いをしっかりと引き継ぎながら、今後もさらなる発展を目指し、ご家族の皆様とともに運営していけるよう努めてまいります。

総会後には春のイベントとして、キッズダンス



グループTiamo様の演舞、そして医師でもありピアニストでもある浅野様による演奏会をなぎさ和楽公園で開催しました。ご利用者やご家族、ボランティアの方々、職員も一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

(特養生活相談員 梅原淳一)



VOI.2 令和6年度ボランティア交流会

3月2日(日)、「ボランティア交流会」を開催しました。昨年再開され、前回は大きく上回る人数のボランティアの皆様にご参加いただきました。約5年にわたる感染症の影響で、ボランティア活動が制限され、距離が遠くなっていましたが、令和6年度は多くの方々がなぎさ和楽苑へ戻ってくださり、交流会への参加者も増え、活動の活性化を実感しています。

交流会では、日頃の活動への感謝を込めてボランティアの皆様をおもてなしして、ボランティア同士の交流や職員とのつながりを深める機会となりました。長年活動が続けてこられたボランティアの方々の表彰式では、1団体と1名の個人を表彰しました。両ボランティアの方々は約26年前から当苑で活動を始め、現在に至るまで温かい支援を届けてくださっています。

改めて、ボランティアの皆様が当苑にとって

大切な存在であり、地域全体を支える大きな力となっていることを感じました。また、新しく活動を始めた方々も多く参加し、新たな出会いが生まれる機会となりました。職員一同、今年度も精一杯準備をし、より良い交流会を開催できるよう努めてまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(ボランティア担当 中村達也)



文集に寄せて

職員より



中学生の頃に高齢者福祉の仕事に就きたいと夢見て、学生時代にボランティアで通ったことをきっかけに「なぎさ和楽苑」に就職して20年になります。

特養の介護員を3年経験し、生活相談員として15年、ご入居者、ご家族の相談に対応させていただき、現在の事務所へ異動いたしました。

異動当初はご入居者、ご家族とお会いする機会も減り、書類とパソコンと向き合う日々には寂しさもありましたが、今では事務の仕事は縁の下の方持ちだと考え、やりがいを感じています。

労務の仕事は入退職、休職、労働災害、出産、結婚など職員のライフ

スタイルやライフステージに合わせた相談に耳を傾けるなど、生活相談員時代に経験したソーシャルワークと通じる部分もあると感じています。また財務の仕事は当苑のサービスをご利用されているご入居者、ご利用者にとって質の高いサービスを提供するために必要な専門職の配置や職員が知識・技術が向上する環境の整備、設備・備品を整備はもちろんのこと、働く職員がイキイキと働きやすい環境を整えることだと考えています。

現在、子育て真っ最中のため、週末は体力オバケが爆睡するためにあの手この手と頭をフル回転し、平日はどうしたら育児と仕事を両立できるかを考える毎日です。育児だけでなく介護や看護、趣味の時間や友人との交流など、職員一人ひとりがプライベートと両立できるよう考えていきたいと思っています。ぜひ、お気づきの点やご不明な点は遠慮なくお声掛けいただければと思います。

事務部長 尾田めぐみ



ケアラズカフェ 「よりみち」オープン!

どなたでも
どうぞ!

「介護者、支援者の方々が気軽に立ち寄り、同じ介護者同士の交流や情報交換、専門職との相談ができる場。介護者自身のケアも大切にしながら、エネルギーチャージできる居場所づくりを目指す」をテーマになぎさ和楽苑内にある喫茶「ブリッサ」を活用し、ケアラズカフェ「よりみち」を開催しています。



**お話がしたい! 介護者同士で交流したい!
情報交換したい! 専門職に相談したい!**

フラワーアレンジメントや手話、ハンドマッサージなどのイベント、男性介護者集まれ! の日、歯科衛生士とのお相談日など毎月アレンジしています!

日 時

毎週火曜日・木曜日(祝日除く)
11:30~15:30

会 場

なぎさ和楽苑1階 地域交流スペース

【カフェに関わるスタッフ】

あしたば会家族/特養家族会/チームオレンジ員/大慈学苑(傾聴団体)/当苑職員

ご入居者様より

野崎 シゲ様



特養での生活は、とても穏やかで安心できます。職員さんたちはいつも笑顔で親切に接してくれ、なんでも相談に乗ってくれます。食事栄養が考えられたおいしい料理が出てきてうれ

いです。同じ施設にいる仲間とおしゃべりや行事も楽しみの一つです。健康面でもきちんと気を配ってもらえて、安心して暮らせる日々を送れています。感謝の気持ちでいっぱいです。



資格取得者 (敬称略)

社会福祉士

阿戸匠・増田珠佳・猿橋璃音

介護福祉士

湯川貴子・チュオンティホア

横山華代子・イスラムサイデウル・玉置貴代・根本みゆき

主任介護支援専門員

野村和斗

介護支援専門員

大城潤治・大場美雪

認知症ケア専門士

遠藤信裕

皆さん、おめでとうございます。



文集なぎさ第 82 号

〈令和 7 年 7 月 31 日発行〉

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑

発行者 苑長 池田めぐみ

編集 「なぎさ」文集委員
(生馬・大栗・金・中村)

〒134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1

info@tokyoeiwakai.or.jp

https://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 株式会社企画

編集後記

本年度の文集も、無事に皆さまにお届けすることができ、大変うれしく思います。執筆にご協力いただいた皆さまの温かいお言葉や、日々の思いが詰まったページは、読み返すたびに心が和むものばかりです。この文集が、皆さまの日常の小さな楽しみや元気の源になれば幸いです。編集にあたっては至らぬ点もあったかと思いますが、ご容赦いただけますと幸いです。これからも皆さまの声を大切にしていきたいと思っています。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。(特養生活相談員 大栗朋也)

